

## 公益財団法人どうぶつ基金要請書（令和4年12月22日）に対する回答

資料1の「ノネコの捕獲数が13頭しか行われなかった2003-2015年の間にクロウサギは8倍に増えた」及び「ノネコの捕獲が151頭行われた2015-2020の間にクロウサギは14%減少した」並びに資料2の「アマミノクロウサギの生息数は2015年時点からほぼ横ばい」との記載については、異なる手法<sup>※1</sup>による解析結果を比較されていますが、経年変化を比較するのであれば同一の手法による結果を比較する必要があります。

2021年の状態空間モデルを用いた個体数推定（以下、2021年推定）による中央値での経年変化をみると、2003年（2329.8）から2021年（19558.1）の間に約8.39倍に増加し、2015年（8665.5）から2021年（19558.1）の間でも約2.3倍に増加しています。（表1、図1）

また、環境省がノネコ対策に本格的に乗り出したのは、奄美大島5市町村、鹿児島県と共に奄美大島ノネコ管理計画を策定した2018年からのことであり、現状の捕獲体制では奄美大島の50%程度しかカバーできていないものの、2018年度から2021年度末まで319頭のノネコを捕獲しています。（表2）

2018年（13152.6）から2021年の間を比較するとアマミノクロウサギの推定生息数は中央値で1.49倍に増加しています。（表1、図1）

なお、マングース防除事業による自動撮影カメラ調査によるアマミノクロウサギの撮影率においても長期的に増加傾向であり（図2）、各種調査結果や目撃情報を元にしたアマミノクロウサギの生息確認メッシュ（3次メッシュ<sup>※2</sup>）についても2015年以降新たに85メッシュの増加が確認できるなど（図3）、個体数推定以外でも、奄美大島におけるアマミノクロウサギの生息状況が回復傾向であることを示す結果が得られています。

以上のことから、近年のアマミノクロウサギの増加傾向は、今のところ2018年が最後の捕獲となっているマングース防除の効果が拡大してきていることに加えて、ノネコ対策の効果ができていると推測され、発言の訂正等の必要は無いと考えています。

引き続き、奄美大島の生態系の保全のためマングース防除、ノネコ対策、希少種の保護増殖等の取り組みを進めて参ります。

### ※1 アマミノクロウサギ個体数の推定手法の違い

2003年のアマミノクロウサギ個体数の推定値はSugimura & Yamada(2004)による河川沿いの糞粒調査の結果から推定した値であり、2015年の推定値は、保護増殖事業で行っている糞粒密度とマングース防除事業で行っている自動撮影カメラの撮影頻度から算出した密度指標を元に算出したものです。2015年の推定値については推定幅が大きすぎることから手法の改良を行うため、推定生息数としての公表は行っておりません。

2021年推定は、REST法による調査結果から得られた2020年度のコアエリアにおける推定生息密度を考慮し、保護増殖事業で行っている糞粒密度や自動撮影カメラの撮影頻度

等から各エリアの生息密度の経年変化を推定し、得られた生息密度にエリアごとの面積をかけることで、生息数を推定したもので、2003年の推定とも2015年の推定とも異なる手法により得られた結果です。

※2 3次メッシュ：緯度経度で区画された約1km四方の範囲で基準地域メッシュともいう。

[https://www.biodic.go.jp/kiso/col\\_mesh.html](https://www.biodic.go.jp/kiso/col_mesh.html)

○表1 奄美大島のアマミノクロウサギ推定生息数(速報値)※(沖縄奄美自然環境事務所, 2022)

年度	2.50%	25%	50%	75%	97.50%
2003	752.6659	1460.903	2329.764	3673.62	7821.495
2015	4831	7135.6	8665.5	10450.4	14816.8
2018	7401.9	10843.5	13152.6	15854.4	22124.1
2021	10024.3	15763.1	19558.1	23995.6	34427.1

※各%は推定生息数の信用区間が含まれる範囲、50%は中央値を示す。

表2 奄美大島のノネコ捕獲数(沖縄奄美自然環境事務所, 2022)

年度	捕獲数
2018	43
2019	125
2020	27
2021	124
合計	319

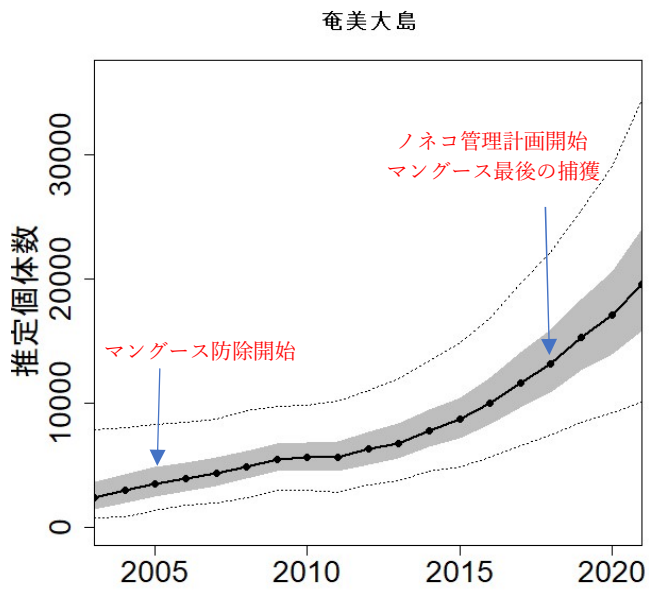


図1 アマミノクロウサギの個体数推定結果（速報値）  
 （実線は中央値、グレーの範囲は 50%信用区間、破線は 95%信用区間）  
 （沖縄奄美自然環境事務所，2022）

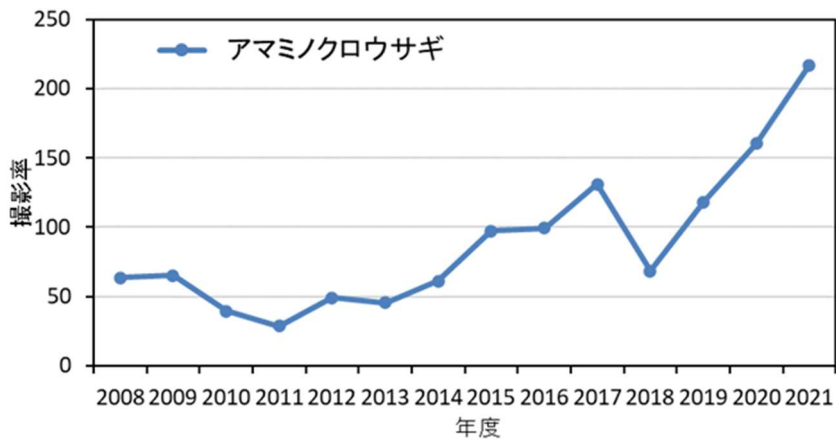


図2 マングース防除事業で撮影されたアマミノクロウサギの撮影率の経年変化  
 （沖縄奄美自然環境事務所，2022）

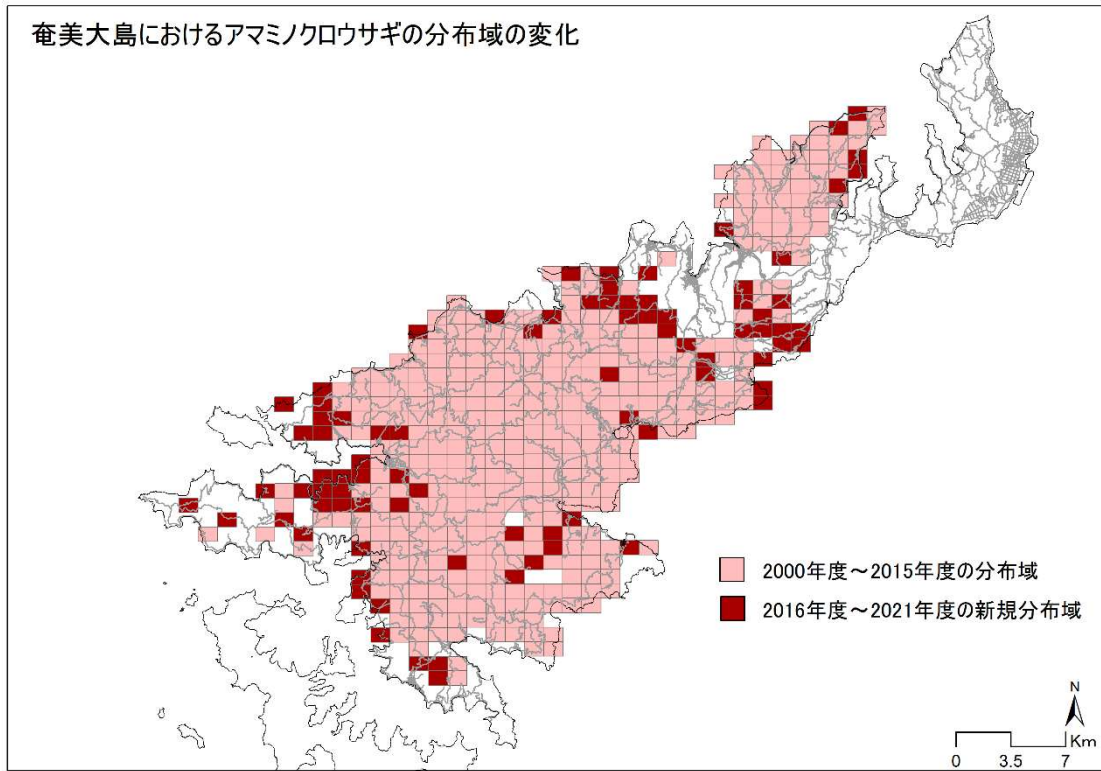


図3 奄美大島におけるアマミノクロウサギの分布域の変化  
(沖縄奄美自然環境事務所, 2022)